

面の動き

帝京大学総合博物館企画展

「日本アニメーションの父」

政岡憲三と

アニメーションの現在

2023年

7/29(土)~10/15(日)

臨時開館日：8月6日(日)、20日(日)
9月17日(日)、10月15日(日)

閉館日：日曜日・祝日・10月7日(土)

開館時間：9:00~17:00

主催：帝京大学総合博物館
協力：帝京大学文学部日本文化学科
会場：帝京大学総合博物館企画展示室



入場無料



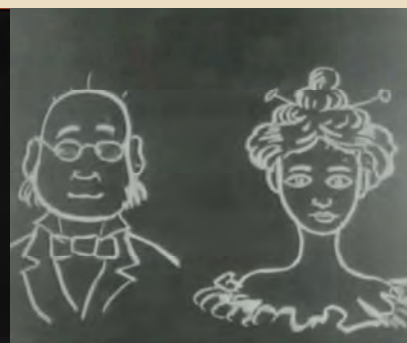
↓ ショーヴェ洞窟壁画 / MINISTER DE LA CULTUR



↓ フェナキストスコップ / 所蔵：帝京大学総合博物館



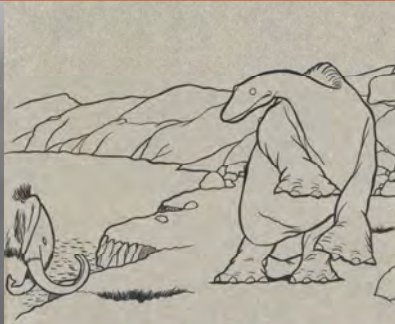
↓ エドウィン・S・ポーター『大列車強盗』/ LIBRARY OF CONGRESS



↓ ジェームズ・スチュアート・ブラクトン『愉快な百面相』/ LIBRARY OF CONGRESS



↓ ジェームズ・スチュアート・ブラクトン / LIBRARY OF CONGRESS



↓ ウィンザー・マッケイ『恐竜ガチ』/ LIBRARY OF CONGRESS



↓ 政岡憲三『海の宮殿』/ 玉岡忠大コレクション 写真提供：神戸映画資料館



↓ 政岡憲三『難船物語』第貳篇・海賊船 動画屏風部分 / 所蔵：個人



↓ 政岡憲三 / 写真提供：国立映画アーカイブ



↓ 政岡憲三『くもっちりっ』イラスト / 鏡後の大阪 第六編 所蔵：帝京大学総合博物館



↓ 大藤信郎 / 写真提供：国立映画アーカイブ



↓ 大藤信郎千代紙作品 / 所蔵：国立映画アーカイブ



↓ 瀬尾光世 (瀬尾太郎) / 写真提供：個人



↓ 瀬尾太郎画イラスト (水彩原画・ポスターカラー彩色) / 所蔵：個人



↓ セル用絵の具 / 所蔵：日本アニメーション



↓ 日本アニメーション『未来少年コナン』セル画部分 / 所蔵：個人

お問い合わせ：TEL 042-678-3675 ホームページ：<http://teikyo.jp/museum/>

帝京大学文学部日本文化学科では、アニメーションを専門とする教員が在籍し、その研究を行うとともに、その成果を活かした教育活動を行っています。本展覧会は、その研究や教育活動の成果を通して、アニメーションの歴史の奥深さや、広がりを紹介する展覧会です。

政岡憲三の足跡を軸に、アニメーションの歴史をたどる

日本では1912年にアニメーション映画が欧米から伝わり、人々から絶大な人気を得ます。そして、それに魅せられた人々がアニメーションを制作するようになり、日本国内でも次々と作品が生み出されます。その制作者の1人に政岡憲三(1898~1988)がいます。政岡は、「阪神間モダニズム」が花開いた大阪に生まれ、画学生時代に学んだことや、劇映画制作の経験を活かし、30歳にして、アニメーションの世界に飛び込みます。そして、国内のアニメーションではいち早く、音の付いた作品の制作や、細かい表現が可能なセル画を取り入れるなど、新しい技術の発展に尽力します。そして、それらの集大成として、1943年にオペレッタ形式の『くもとちゅうりっぷ』を作り上げます。戦後の1950年代には、児童向けの雑誌や絵本の挿絵画家に転身し、アニメーションの制作から退きました。1960年代に入ると、アニメーションの舞台は急激に映画館からテレビに移行します。そしてテレビアニメが盛んに制作されるようになると、それらの制作を担う人材の育成が急務になり、政岡はアニメーションスタジオから依頼を受けて、新人アニメーターの教育を担当し、人材の養成に尽力します。第一線から退いてもなおテレビアニメを陰から支えていました。これらの功績から政岡憲三は「日本アニメーションの父」と称され、日本のアニメーションの発展と共に、その生涯を歩んだのです。

本展覧会は、アニメーションの起源から現在までの歴史を貴重な資料や映像を通して紹介するとともに、政岡憲三の足跡を軸にして、日本のアニメーションの始まりからその発展までの歴史を紐解きます。

第1章 アニメーションの起源

アニメーションの創世記

アニメーション(animation)の語源となる「anima」とは、ラテン語で「魂」「生命」を意味します。静止しているものに動きを与える芸術として生まれたアニメーションは、産業としても発展していきます。



動く映像を人類に与えた装置
アニメーション草創期の視覚玩具
所蔵:帝京大学総合博物館

静止画の歴史
初期の写真術で撮影された写真類
所蔵:個人

映画を楽しむ
昭和初期の手回し映写機
所蔵:個人

「日本アニメーションの父」政岡憲三
政岡憲三写真
写真提供:国立映画アーカイブ

第2章 政岡憲三とその時代

「日本アニメーションの父」と称される理由

政岡憲三は、当時の最新技術を導入し、時代の先端を行くアニメーションを制作します。それらの業績から、「日本アニメーションの父」と称されます。



史上初展示・政岡憲三が残した切り紙動画
政岡憲三「難船物語」第2巻・海賊船 動画屏風部分
所蔵:個人

アニメーション作家から児童文化クリエイターへ
瀬尾太郎画イラスト(水彩原画・ポスターカラー彩色)
所蔵:個人

政岡憲三と提携したアニメーション制作作家大藤英一が用いた撮影台
アニメーション撮影台
所蔵:国立映画アーカイブ

第3章 政岡憲三の後継者たちと新世代

日本のアニメーションの飛躍

アニメーション制作の一線から退いた政岡憲三は、後進の育成に尽力しました。そしてその教えを受けた人々が、戦後の日本のアニメーションを担う人材として活躍します。



政岡憲三渾身の講義記録
自然運動の作例 風
政岡憲三「政岡憲三動画講義録」(1960年代頃)
所蔵:個人

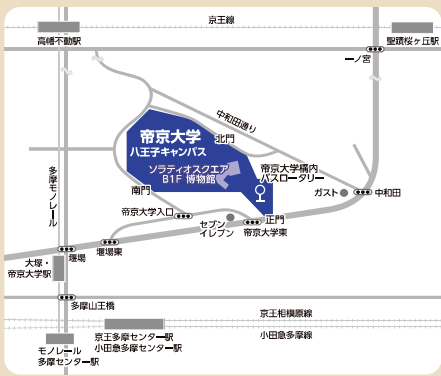
日本アニメーション帯り作家 崎駿初監督テレビアニメ
日本アニメーション「未来少年コナン」セル画部分
所蔵:個人

雑誌からみるアニメーションの現在
アニメーション雑誌
所蔵:個人

第4章 アニメーションの現在

アニメーションの拡大

2000年代に入ると、アニメーションは更なる発展を遂げます。現在では、深夜枠での放映や、ネット配信など日々、数多くの作品が制作され人々に楽しまれています。



*大学構内に来館者の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
*高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘駅・多摩センター駅から「帝京大学構内」行きのバスが便利です。(所要時間15~20分)
*車いすでご来館予定の方は事前にご連絡ください。

■関連イベント 会場: 帝京大学八王子キャンパス ソラティオスクエア小ホール		会場: 帝京大学総合博物館セミナー室
1 講演会 アニメーションの世界を知る 日時: 9月9日(土) 14:00~15:15 演題: アニメーション文化論 「映像の起源から現代日本のアニメ」 講師: 康村諒 (帝京大学非常勤講師・元帝京大学文学部日本文化学科准教授) 定員: 150名(先着順)	2 上映会 政岡憲三作品を楽しむ 日時: 8月26日(土) 11:00~12:00 上映作品: 「くもとちゅうりっぷ」(16分・白黒)1943年 (松竹動画研究所)監督:政岡憲三 「すて猫トラちゃん」(21分・白黒)1947年 (東宝教育映画)監督:政岡憲三 定員: 150名(先着順)	科学工作教室 かんたんアニメーション工作 日時: 8月12日(土) 10:00~12:00 13:30~15:30 テーマ: 「ソーマトラロープをつくろう」 日時: 8月19日(土) 10:00~12:00 13:30~15:30 テーマ: 「フェナキストスコープをつくろう」 ※申込不要・開催時間内に随時受付 工作の所用時間は30分程度です。
日時: 9月30日(土) 13:00~14:00 演題: 戦前アニメーションの世界ー政岡憲三の活躍ー 講師: 萩原由加里 (帝京大学文学部日本文学学科講師) 定員: 150名(先着順)	日時: 9月30日(土) 14:30~15:30 上映作品: 「桜(春の幻想)」(8分・白黒)1946年(日本漫画映画社)監督:政岡憲三 「かぐや姫」(33分・白黒・再編集短縮版)1935年(J.O.スタチオ)監督:田中喜次、撮影:円谷英二、ミニチュア制作/撮影:政岡憲三 定員: 150名(先着順)	
1、2 共通: 事前申込制となります。申込方法: 博物館窓口、電話、ホームページ 締切日: 各講座の当日まで受付(定員になり次第締切)		

参加無料